

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	B棟
所在地	宮崎市田野町あげぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成23年7月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571500471&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念が出来ており、全職員が理念を共有し、充実した支援が出来るように取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年一度、夕涼み会への参加の声かけを積極的に行い、交流が図れるよう努力している。 ・11月は町内の文化祭に出展し、見学を実施し交流を図っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の代表が各地区に出向き、認知症についての理解や事業所の内容、説明を行い努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議で苑の行事やケアの内容、問題等相談を行い、意見を頂き、月1回の苑内合同カンファレンスで報告をし、サービス向上に繋げる努力をしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、地域包括支援センターの方と連携を密に行っている。又、地域包括支援センターの勉強会、研修会にも参加し、行政の方々とのつながりを大切に事業所との協力関係が築けるよう取り組んでいる。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は充分理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに話し合いを持ち、虐待に繋がる事がないように注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに話し合い、又、入居時、必ず家族に対しても説明や情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、十分な説明を行い、理解していただいている。 ・不安な事、疑問点などを確認し理解と納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見、要望が出た時には速やかに管理者が運営者に相談し、対応している。必要時には直接相談して頂いている。 又、意見箱も設置している。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同カンファレンスや機会あるごとに職員の意見や提案を聴くようにしており、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の合同カンファレンスに参加し、職員の研修発表なども一緒に学んでいる。 労務士を付けており、職場環境は良いと思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り各人参加していただいている。 研修で勉強してきた事は、カンファレンスにて発表し、全体で勉強できる環境をつくっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で同業者の方との交流はできていると思う。 又、田野町のケアマネの勉強会にも参加し、疑問点などを質疑したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人、家族の不安なこと、困っていること、要望などを聞き取る努力はしているが、本人は要望等を言われたい。求められない家族が大部分である。入居後1～2週間は毎日記録し、職員と連携を持ち、ミーティング等で出し合い、統一対応を行い、本人に一番良い方法を見出す努力を努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	3ヵ月、6ヵ月の担当者会議時、必ず意見を求め、要望等を引き出す努力をしている。又、面会などに来苑時、積極的に声かけし、聴く機会作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが積極的に取り組み、家族の意見、要望を聴く努力をし、管理者や担当者へ相談し、支援を見極めサービスに繋げる努力をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者といった壁を作らず、家族のような関係を保つ努力と、利用者一人ひとりの能力を見出し、「団子づくり」や「洗濯物畳み、干し」「盛り付け」などを手伝っていただき、感謝の意を伝え、暮らしを共にする関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、体調の変化、毎日の様子等話し、安心と絆を維持できるよう支援している。又、利用者の変化に気づき、面会を要請し、共に本人を支えていく関係を築いている。（本人も喜ばれすぐに元気になっている）しかし、家族によっては連絡しても喜ばれない家族もおられ、皆同一ではない。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人への声掛けを機会あるごとに行っている。 ドライブを兼ね故郷訪問もしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係を見極め、関わりやすい雰囲気作りに配慮し、支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なフォローが必要な方、家族に対してできる限りの支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議時に、希望、意向の把握を行っている。困難な場合、本人の残存能力等を勘案し、サービスの提供を行っている。利用者は、新人職員に良く話される方が多い。担当とモニタリングを行い、希望の把握をしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に今までの暮らしぶりの把握を行い、なるべく今まで通りの暮らし方をして頂く為に、起床時間、食事、レクリエーション参加の有無、その他、苑に合わせて頂くのではなく本人に職員が合わせて過ごして頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、ケアプランによる一人ひとりの状態を毎日記録し把握に努めている。状態変化時は、看護師に連携をとり、対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度、家族、担当者、管理者及び看護師、ケアマネでサービス担当者会議を行い、利用者本位の介護計画を作成している。又、毎月担当者とモニタリングを行い状態把握に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた援助記録を行い、体調変化（脚力の低下）等、情報を共有し、頻度の変更やプランの見直しを行っている。ドライブや団子作り等、笑顔が多く見られたら、職員間で話し、コミュニケーションを広げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に大きな問題はない。認知症の方は帰宅願望が強いが、その時の時の対応の方法で落ち着かれている為、今のところは既存のサービスでよい。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の紙芝居ボランティア ・年1回の保育園児の訪問 ・夕涼み会時の踊り、カラオケのボランティア ・初詣 ・月1回のドライブ(馴染みの地域、あじさい公園等) 			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重視し、納得が得られたかかりつけ医がある。 かかりつけ医と事業所の関係は良く、気軽に相談できている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の情報や気づきを職員間で共有し、看護師へ早急な相談などをし、適切な受診、看護を受けられるように支援している。又、月1回の訪問診察に於いて、医師への相談もさせていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関やかかりつけ医との連絡を密にし、面会に行き、利用者や家族との関係を維持できるよう努力している。 常日頃より協力医療機関との関係が良い状態で保てる努力をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、急変や終末期については充分説明を家族に行っている。特に終末期に於いて、苑の方針を説明した上で理解を得ている。 苑の方針 1.治療しても治る見込みがない。 2.高齢者の為、医療行為を望まれない。 3.ここで最期を迎えたいと望まれている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、基本マニュアルは作成している。不定期ではあるが研修や講習会に参加し、月1回の合同カンファレンスで全職員に報告を兼ね勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練の年2回実施(消防局の職員の指導の元で。) ・火災時は消防局と直通で連絡できるようになっている。 ・火災や災害時は、地域や消防団への協力依頼を日頃より行っている。 			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを行い、プライバシーを損ねないように努力、対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間に余裕がある時は、出来る限り寄り添うように努め、本人の思いや希望を引き出せるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのプランに添えるように支援しているが、午前中は健康維持とレクリエーション（ボール遊び、輪投げ、パターゴルフ）、歌、外気浴、苑庭や廊下での歩行運動をしていただいている。午後は自由にDVDを見たり、自室で過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら好みの服装をされる方は少ない。季節にそぐわない時等は、さりげなく合う服を準備したり、洋服選びを手伝い支援している。常に清潔に心がけ、注意を払い支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、一人ひとりの好みを取り入れる努力をしながら、メニューを考え、四季折々の食材を提供するように努めている。又、利用者の力を活かしながら、食材の刻みや盛り付け等を手伝って頂き、一緒に準備する喜びを感じてもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに配慮し、献立を立てている。 ・季節の食材を使用する事で、季節感を味わい喜んでいただいている。 ・毎食、摂取量のチェック、記録を行い、一人ひとりの状態を把握し、水分確保に努め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、必要に応じて介助し、清潔保持を行っている。 義歯消毒 2回/w(月、木)			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かし、時間誘導、声かけ、必要に応じ介助支援を行っている。 日中は全てトイレで対応している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、早朝の冷水提供、かかりつけ医より便秘薬を処方して頂いている。 食材への配慮、おやつ時、食物の配慮。 午前中は適宜な運動の声かけ実施。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴、隔日（4名、5名に分けて）午後2時より実施。 ・一人ひとりの入浴でプライバシーの保持。 ・時折、夜間入浴の問いかけを行っているが、現在希望される方はおられない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	10時のお茶後、日常生活のメリハリをつける目的と健康維持の為、スクワット、リハビリ体操、下腿挙上運動、歌、外気浴、散歩、苑庭や廊下での歩行運動実施。天候によってレクリエーション（ボール遊び、輪投げ、パターゴルフ）を室内で実施。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬については、処方説明書で理解している。誤薬に注意し、一人ひとりの名前、日付を確認しながら手渡し、又、必要に応じ、直接口の中に入れて支援している。薬、変更時は全職員が把握できるように引き継ぎノートに記載し、申し送りしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々には、その人に合った役割をプランにあげ、月1回の団子作り等をお願いしている。（テーブル拭き、台所の手伝い、米とぎ、盛り付け、洗濯物畳み、干し、運び、ゴミ袋の名前書き、畳み、新聞紙畳み）職員に余裕がある時、トランプ、折り紙を実施し、気分転換を支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回、理事長、施設長の協力を得ながら、交代でドライブ実施。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・普段はほとんどお金は使われない。 ・紅葉狩りやドライブに出かけた時には、売店等で500円程度持たせて買い物をして頂く事もあるが、利用者の中には全く関心の無い方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は、希望があればいつでも対応している。 ・手紙に関しては、現在書こうとされる方はおられない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは居心地良く過ごして頂くよう、畳の間の間もあり、TV、CDラジカセ、ソファを備えており、利用者の意向に沿った音楽やCDを流したり、水戸黄門の録画を観たりして過ごして頂いている。空気清浄機(加湿機能付き)も設置しているが、天候の良い時は自然な空気を取り入れるよう工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるように席を配慮している。 ソファや畳の間に自由に過ごして頂く工夫。 家庭的雰囲気を感じてもらえるように飾りつけ等の気配り。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者によってはTV、椅子、収納ケースなど持ち込まれて、居心地良く過ごされている。 ・居室に何も無い方については面会時、担当者会議等で声かけは行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・要所々に手摺の設置、居室の柱には安全カバー、トイレは起立バー、手摺の設置 ・バリアフリーで転倒防止 ・夜間トイレを利用される方には、センサー式照明の設置で安全確保を工夫している。 ・各居室洗面台設置、いつでも自由に使用していただいている。			